

都市再生整備計画事業 フォローアップ報告書

油津地区

平成27年3月

宮崎県日南市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標			従前値	目標値	事後評価					フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別		目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	1日平均歩行者・自転車通行量	人/日	2,351	3,900	2,950	確定	●		あり		H27年3月		商店街周辺の事業である「テナントミックスサポート事業」の効果が見られた。	■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	商店街周辺の各事業である「テナントミックスサポート事業」の効果が一部で見られたが、商店街以外の場所では思ったような成果が得られず、目標の達成にはならなかった。
						見込み			なし						
指標2	社会基盤整備に対する満足度	5段階評価	3	4	3	確定			あり	3	H26年3月		事後評価時点では、事業が完了しておらず測定値が変動する可能性があったため見込みの評価値としていたが、評価基準日において測定値に変動がなかったため評価値が確定値となった。	■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	道路等の整備により、魅力的な空間を形成することができたが、賑わい創出や性格環境の向上にあまり変化が見られないため、思うような成果が見られなかった。
						見込み	●		なし						

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指 標			従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別		達成度				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	まちづくりに対する満足度	5段階評価	—		3.6	確定	●			H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	「まちづくりに対する満足度」について、「満足」「やや満足」の回答が半数を超えていることから、当該事業を含めたこれまでの取組については、概ね地区住民の理解と満足を得られている。
						見込み								
その他の数値指標2	まちづくりに対する意識の向上	5段階評価	—		3.8	確定	●			H 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	「まちづくりに対する意識の向上」について、「大変向上した」「向上した」の回答が役80%であることから、中心市街地活性化基本計画に基づく取組によって、意識の向上が図られている。
						見込み								

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	魅力的な基盤整備の推進及び適正な維持管理	・道路のグレードアップやまちなか案内サインの整備を実施し、西町材木町線や下町線、上町海岸線など適正な維持管理を行った。	・まちなかを回遊させる道路の高質化や案内サインの整備により、観光地化を推進するための基盤を形成することができ、通行量の増加が図られた。 ・案内サインの整備により、まちなか回遊の基盤を形成することができ、回遊性の向上が図られた。	・人を呼び込むための拠点施設の整備やソフトプログラムの充実を図る必要がある。 ・案内サインだけではなく、散策マップやガイドを活用したまち歩きや拠点の魅力づくりを行い、楽しみながら回遊できる環境の形成が必要である。
	持続的な連携体制の構築	・油津まちづくり会議を設置し、本会議やワーキング、市民ワークショップ等を適宜開催した。(3～4回/年)	・油津まちづくり会議での議論や、市民ワークショップの開催等により、住民と一体となった取組が推進され、まちづくりに対する意識の向上が図られた。	・休憩スペースの提供や語り部としての役割など、会議等への参画だけでなく、まちのおもてなしとして、官民一体となった取組を推進する必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	人が集まる魅力拠点の形成	堀川夢ひろばを読み聞かせ空間とする社会実験	日常的な夢ひろばの使い方について、住民にこれまでと異なる形を提示することができ、新たな堀川夢ひろばの利活用方法を見出すことができた。	人が集まる拠点の整備や、堀川夢ひろばを日常的に使いやすくするための水飲み場や木陰整備等が必要である。
	回遊を促進する戦略プランの策定	市民が主体となったまちあるきイベントの企画・実施	まちあるきイベントに参加した住民意識の変化と、地域にある資源の掘り起こしに繋がった。	一過性のイベントではなく、日常的に楽しめる回遊プランを作っていく必要がある。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項